

令和6年度 第2回長野県長野高等学校学校評議員懇談会 記録

1. 日 時 令和7年 2月 20日 (木) 15:30～16:45

2. 会 場 長野県長野高等学校 大会議室

3. 出席者

学校評議員6名 (五十音順)

池田 宇一 氏 (長野市民病院長)

徳永 久美子 氏 (長野市PTA連合会副会長)

佐野 忠文 氏 (上松区 区長)

竜野 泰一 氏 (株式会社エーシーエ設計 代表取締役)

中村 正行 氏 (信州大学工学部教授)

藤井 純子 氏 (東口メンタルクリニック臨床心理士)

学校職員13名 生徒代表1名 (生徒会長)

4. 学校評議員懇談会

(1) 開会 (15:30～)

(2) 学校長挨拶 (15:30～)

- ・日頃より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。
コロナ禍により長い間、研修旅行は国内で工夫してやってきましたが、昨年は台湾に行き、現地の人々と交流するなど貴重な体験となりました。
- ・様々な体験により生徒の資質、能力を伸ばす体験主義的な教育課程として、今後は、中国文化大学と提携を結んで 色々な体験的な機会を創出したり、また、米国研修に加えて、今年度の1年生からシンガポールとイギリスの海外研修を予定し、長野高校単独でなく、新潟高校や早稲田本城学院といった他県の進学校の生徒達と研修団をつくる計画です。このように外からも色々な刺激を受けながら、長野高校での体験全体を豊かな大きなものにしていきたいと願っています。
- ・文科省のDXハイスクールという事業を活用し、コンピュータールームの移転を行い、今後はハイスペックなコンピューターを導入してプログラミングを行うような班活動も創出していきたいと考えています。

(3) 自己紹介 (高校職員、生徒代表のみ)

(4) 全日制の状況について (15:05～)

① 全日制の概況 (全日制教頭)

- ・今年度の全日制の取り組みとして、主に2点報告します。
- ・1点目は、本年度は、単位制の完成年度の1年でした。単位制になって初めての卒業

生が今年の3年生です。本校の単位制の特徴を2つ挙げますと、1つ目は毎週月曜日の6時限目に行う総合的な探究の時間が、単位制への移行に伴い教員の数も増え、校長・教頭を含め全職員で少人数のグループを担当してゼミ形式で丁寧な指導ができるようになりました。

- ・2つ目は、校外で開催されている自然科学や情報系のコンテストなどに主体的にチャレンジする生徒たちを支援する科目を選択できるようにしたことです。自分の興味のあることを深く学びたい、探究したいという生徒たちの活動を支援できる体制につながり、本年度の推薦入試等の成果にも繋がっています。すでに東京大学の医学部、経済学部にも推薦で合格者が出ています。
- ・次に2点目の取り組みとして、先生方の働き方改革です。本年度は、教員業務支援員の制度を活用し、学年会計の処理等をお願いしました。また土日に行う模擬試験の業務を本校の卒業生で現在信州大学に在籍をしている学生にアルバイトをお願いすることにより先生方の休日出勤も減らすことに繋がりました。その他にもテストの処理に電子採点を導入したり、プリントの印刷から閉じ込みまでを可能にするカラー印刷機を導入して、生徒たちと向き合う時間を確保しました。

今後も様々なご支援ご協力いただきながら働く環境の改善を進めていきます。

② 進路学習支援係より（進路学習支援係）

- ・今年度、校内の考査の意義や必要性について再検討を行い、なるべく減らす方向で校内の考査の数を精選しました。班活動で忙しい生徒たちも時間的な余裕をもった学校生活を送れるようになったと思います。今後も考査の回数自体は変えずに、今年実施した反省から考査の位置を少しずらすなど、より効果的に校内の考査が行われるように考えています。
- ・4月に昨年度の3年生の総まとめとしての進路研究会を行っています。また、12月に各学年で生徒たちの様子を情報共有する進路検討会を行っています。偏差値などの学力のみの情報共有ではなく、アセスメントテストの結果を踏まえ、探究の内容や班活動の様子等の行動の特徴などを学習全体に関わる情報共有の場として行っています。
- ・進路行事は、ほぼコロナ禍前の状況に戻りました。コロナ禍で発達したオンライン会議に関しては、対面とミックスしてさらに効果的になっています。例年夏に東大セミナー、東北大セミナー実施し、実際に東京大学と東北大学に生徒を連れて行きます。今年は、東大セミナーに関しては、メタバース工学部という広報担当部署に依頼をするなど教員の負担を減らし、生徒への効果が高められるように工夫しています。東北大学についても従来の講演会ではなく、オープンキャンパスに日を合わせて生徒を連れて行き、夜はOB、OGとの交流会に参加できるプログラミングに変更しました。

- ・1, 2年生の7月には、信州大学の講演会や学校説明会、医学科の説明会を実施し、1年生の3月に医師や公認会計士など様々な講師をお招きして、講演会を実施しています。3年生の進路指導について推薦入試では、東京大学医学科と経済学部の1名ずつ計2名が合格になっています。ちなみに全国で複数名の合格を出しているのは全部で10校だけです。かなりの快挙だと思っています。他の国立大学、医学部に多数の生徒が合格しています。合格したどの生徒も学校生活を通して探究活動を深め、自分のやりたいことをしっかり見据えて面接等の場面に臨んだことが評価されていると思います。
 - ・共通テストは271名の出題となりました。新課程になって心配していましたが、全国的にも平均点が上がり、本校の生徒たちも全国平均に対してほぼ100点近く上がりました。新課程の入試であり、慎重に出願したと思いますが、基本的には生徒自身が行きたい大学に勇気をもって出願しています。現在、2次試験直前で、生徒は苦しみながらも友達と一緒に楽しみながら勉強をし、成長している姿は本校の特徴であると思っています。
 - ・最後に今年度または昨年度から新たに実施した進路活動についてまとめました。
 - ・まずは先生方の土日の模試の勤務を信州大学のOBの学生にお願いしました。
 - ・コロナ明けの生徒の傾向として、学び方がわからないと言う生徒が非常に増えていきます。そういった状況を踏まえ、今までの模試や学校の授業等の生徒個人の振り返りとどまらず、お互いの振り返りや悩みを共有することで、学び方自身を身につけていくことを目的とした学び方発表会を企画し実施しました。
 - ・例年踏襲が、進路指導では多いと思いますが、生徒、職員の要望を聞き、働き方改革も見据えながら、改善をしています。
- ③ 生徒指導係より（生徒指導係）
- ・今年度は信州グッドチャリダーモデル校に指定され、その事業の一環として春、秋2回、警察と生徒合同で自転車通学者へのヘルメット着用の啓発運動を行いました。警察の独自の着用調査では、秋の着用率は83.3%で、県内24校がグッドチャリダーモデル校に指定されている中で、3番目の結果でした。しかし、これは朝の通学中の調査で、放課後の帰宅時9時では、それより低くなっている可能性があります。それを裏付ける正確なデータはありませんが、12月までの事故報告では、71.4%が夕方から夜の時間帯に発生し、そのうち非着用だった生徒は、63.6%になります。朝は着用して登校しても帰宅時は非着用であったとも考えられます。本校の立地条件からしても帰宅時の安全指導に重点を置いていく必要があると考えています。
 - ・その他の問題行動は、6月から9月にかけて金銭を含む盗難が多発しました。貴重品

の管理の徹底や呼びかけや情報収集、また先生方の空き時間に順守をお願いするなどの対策をしています。現在ではそれらの報告はありません。

- ・心の健康相談室、保健室の利用状況について、健康相談数や保健室への来数は少し減少してきています。要因としては、面談等で異変を感じた担任の先生方と相談室の連携が密に機能しており、来数の減少につながっていると考えています。今後もさらに適切な対応を取っていきたいと考えています。

④ 生徒会係より（生徒会係）

- ・応援練習は、コロナ禍により実質2日間というスタイルで、去年と今年も行っています。今年は、応援練習後に1年生にアンケートを行い、応援委員長は今年度の取り組みについて生徒大会で報告をしました。今年の応援練習は、去年のこの時期に再考アンケートを検討して臨み、応援練習のあり方について悩みながらも誠実に対応してくれたと思っています。
- ・次に新入生歓迎音楽会です。こちらは、応援練習を終えた後の月曜日に行いました。コロナが明けて、昨年、今年度と小体育館で行うことができました。音楽の演奏だけでなく、様々なパフォーマンスなども行われ、定着してきたと思います。
- ・次に体育行事です。具体的にはクラスマッチになります。概ね予定通りに開催され、円滑に実施されました。怪我が極力ないように無理のない範囲で楽しんでもらいたいと思っています。
- ・次に金鵒祭です。コロナ対策は例年通りでしたが、熱中症対策が引き続きの課題です。今年度の金鵒祭は、一般公開の2日間で来校者は5000人以上とで、大きな事故もなく無事に終えたのは生徒の協力体制、全体の協力があったからこそだと思っています。
- ・最後に昨年に引き続き会長選挙が行われました。今年度、昨年度と会長選挙が行われましたが、その前は信任投票が続いていました。新会長はテストを含む3週間と短い期間で組閣を行うなどハードなスケジュールをこなしました。現在、約半年になりますが、これから年度が変わって金鵒祭という大きな行事に向けて動いています。

⑤ NGP係より（NGP係）

- ・本校のNGP活動は、課題研究を中心とした探究学習とグローバルな視点を目指す海外研修という2本の柱で行っています。3年生では、課題研究は選択になります。したがって13名という生徒ですが、外部で発表するなど積極的に取り組んでいます。推薦入試では、必ずこのような探究求学習の内容を問われますので、そのような場でもしっかりと話ができる内容で行われていると思います。
- ・2年生では、昨年度から全職員が関わって課題研究の指導するゼミ形式になっています。担当職員1人で、約7人程度受け持ち、個々の生徒にテーマ設定から手法につい

て指導をし、外部での発表も意識しながら取り組んでいます。今年度は、27名の生徒が外部発表に臨みました。大阪大学の研究発表会では、本選最終選考までいき、今年3月に大阪で発表することになっています。秋田県立大学の建築系のコンテストでは、佳作と優勝をしました。このように積極的に外部でも発表しようという意識で取り組んでいます。

- ・もう1つの柱の海外研修です。2年生は全員が台湾に行きますが、1年生も3月に希望者による海外研修を行っています。昨年度からコロナ禍が明けて、米国研修が復活しました。40名の生徒が参加し、帰国後は授業に取り組む姿勢も非常に前向きとなり、台湾研修では中心的な存在になって活躍をしてくれています。今年度は、今まで通りの米国研修は行いますが、さらにシンガポールとイギリスの研修を来年の夏に実施する予定です。海外研修に参加した生徒の話の話を聞くと、本当に視野が開けて、自分の限界を超えられる気がすると言っていました。この事業により本校の生徒のもつ力をさらに伸ばせるものと確信し、さらに積極的に進めていきたいと考えています。

⑥ 3学年より（3学年主任）

- ・1月に共通テストが行われました。大きな変化あり国語、数学の時間が長くなり、情報が入りました。そのような新しい試験であったが、結果的に生徒はよく頑張ったと思います。生徒は、25日スタートの前期試験に向けてさらに頑張っている最中です。
- ・共通テストの結果が良くて、強気の生徒も多く、是非自分の第一志望を何とかしたいという思いで、今行われている後期特編授業にも元気に参加して、夜も7時まで残って勉強している生徒もたくさんいます。不安な生徒もいますが、学校に出てきて、質問したり、友達と話をすることで刺激をもらったりとかしながら頑張っている姿を目にしています。来週火曜日からは前期試験を突破して、第一志望の合格を是非叶えてほしいと思っています。
- ・模試の監督の件ですが、実際にそれを体験した学年として、本当に本校のOBの学生はよくやってくれました。とても良い感想を持っています。

⑦ 2学年より（2学年主任）

- ・2学年での大きな行事は、台湾への研修旅行です。費用について保護者にご負担をおかけする点や現地で具合が悪くなった生徒に対しての対応など課題はありますが、大変素晴らしい成果があったと思います。帰校後、台湾の友人と連絡を取ってる生徒もおり、生徒にとっては、海外に友人がいるということが自分の限界を決めずに、今後の自分の進路を選択していく上でも限界を決めずに大きく羽ばたいていくエネルギーになるのではと思いました。
- ・今後はこの思い出をエネルギーにしながら進路実現に向かって頑張してほしいと思い

ます。

⑧ 1 学年より（1 学年主任）

- ・ 1 年間通して感じることは、礼儀に正しい生徒が多く、また人間関係でのトラブルもなく、和気あいあいとした雰囲気の中で、課外活動等に積極的に参加してる生徒が多いことです。そういう点ではこの 1 年間、非常に穏やかに過ごせたという印象です。
- ・ 1 月の末にスキー教室があり、希望者 227 名が参加しました。本校の生徒たちは、本当に時間がしっかり守れ、日程通りに動くことができたととても感心しました。
- ・ 生活実態調査の結果から、この学年の大きな特徴は、平日または休日の学習時間が非常に少ない学年であるということです。過去 7 年間で一番少ない学年で心配しています。
- ・ 模擬試験について、7 月と 11 月と 2 回実施しましたが、上位層が少なく、下位層も少ないという特徴がありました。本年度、東大に 2 名推薦で合格したという話を聞くととてもプレッシャーに感じています。ただ、先輩たちがこのような素晴らしい結果を残したということで、1 年生にとっては大きな励みになり、今後の成長に期待したいと思っています。

(5) 定時制の状況について（定時制教頭）

- ・ 生徒の在籍状況について、3 年間休学を続けていた女生徒 1 名が、長野市の介護施設への就職を希望し、夏に退学をしました。他の生徒の様子は、授業自体は 4 時半または 5 時半から始まりますが、3 時過ぎに登校し友達と楽しく過ごしているなど基本的に毎日元気に過ごしています。毎日学校に来て、授業をしっかり受けて卒業を目指すという定時制の目指すところが実践されてると思います。
- ・ 定時制の主な取り組みについては、生徒指導、進路指導の一環として行われる講演会等があります。外部の方々のお話をお聞きし、中学校時代に不登校を経験した生徒も社会に関心をもったり、自らの注意すべき点を認識するなど確実に成長しています。
- ・ 生徒会活動のとしては、6 月末の金鵒祭です。普段は夜間ですが、この日は朝から模擬店を出店してアイスクリーム販売を行いました。昨年度はアイスクリーム 500 個用意して販売しましたが、すぐに売り切れたということで今年度は 800 個を用意して、全て売りつくしました。対人関係が苦手な生徒たちも、接客、会計、案内などの部署に分かれて一生懸命に活動することにより、生徒一人一人が大きく成長できたと感じています。
- ・ 次に定時制の代表的な取り組みにエディブルスクールガーデンという中庭農園の取り組みがあります。11 月には、収穫祭を実施し、収穫した里芋善光寺を調理室で調理し、定時制生徒、職員の全員で芋煮を食しました。寒い時期でありましたが、生徒たちは、芋を洗ったり皮をむいたり一生懸命に、みんなで協力して調理をしていました。この活動

は、9月に行われました定時制通信制全県の教頭研究部会の折に私が発表させていただきました。この発表を聞いた他校の教頭先生が、是非本校でも導入したいということで、視察にいらっしゃいました。本当に素晴らしい活動だと思います。

- ・また、学習のみならず定時制通信制体育大会へも積極的に参加する生徒もおり、上手な生徒もそうでない生徒もみんな楽しく、体育の時間を延長してまで取り組んでいます。以上のような活動を通して、本校の生徒たちは心身ともに本当に健康に成長しつつあることを実感しています。

(6) 学校評価について：(全日制教頭)、(定時制教頭)

- ・全日制、定時制について中間および年度末最終評価をお願いしたい。(各議員に依頼)

(7) 学校生活について：(生徒会長)

- ・生徒会と学校生活の様子について分けて説明させていただきたいと思います。
- ・生徒会について、今年は生徒会選挙の時にあえて少し抽象的な公約にして挑みました。その理由は、生徒会のアップデートと生徒会の見直しで、生徒会というものが学校においてどのような役割を担っていて、任期を1年1年下に代に引き継いでいくことによって生徒会の力で何が生まれるのかといったところをもう一度見直して、今までであるような形骸化したものを引き継ぐのではなく、生徒会の意義をちゃんと見直しながら生徒と共に何を目指してやっていくのかを考えることを訴え、今年 生徒会長に当選させていただきました。具体的な活動としては、まだ予定ではなく模索中ですが、骨董市を考えています。目的としては、学校という1つの社会を飛び抜けて、長野市という一つの社会に1人の人間として踏み出して、学校だけではなく社会、例えば善光寺のイベントなどに参加することで社会との関わりを広げていけるのではないかと、そのような活動を通して、どんどん視野を外に広げていくことに重点を置いて活動をしていきたいと思っています。
- ・学校生活においては、進学校ということもあり、例えば数学の公式なども日常の会話として聞こえてきますが、そのような仲間と関わりながら、やはり勉強への情熱と班活動、そして私生活と その3つにおいて本当に均衡のとれた素晴らしい生活を営んでいる学校だと感じています。

(8) 意見交換

- 評議員：推薦入試の結果に驚きました。昨年5月頃の本会議の際に昨年度の進学実績についての説明がありましたが、今一步という感想を持ちましたが、今年度はどうたのでしょうか。探究学習をするとそんな風になるのでしょうか。先ほどの話しを聞くと、東大2名、信州大学も6名、他の大学もあります。地方の高校において推薦入試で複数名の東大合格者は快挙だという話もありました。何が起きたので

しょうか。例えば、これが来年も再来年度も続くようなことになるのでしょうか。

学 校：東京大学に限って言えば、もう10年目の推薦迎えて5年間、5回も合格者を出してる学校は、全国でもそれほど多くはなく、その経験値を積み重ねてきたことがあります。1人のスーパーティーチャーが全部指導するのではなく、集団指導体制で教員同士がまた協力して指導できる体制や先ほどあったゼミ形式の課題研究などもあると思います。たまたま合格した生徒に話を聞くと、『なんで私が受かったのか分からない。私は学校の中で言われたことを、先生たちが提供してくれるから、ただそれに対して一生懸命答えていただけ。』と言っていました。例えば生物オリンピックに出たいと言ったら生物オリンピックの放課後補習やそういった授業が開催されているので、自由に参加し、例えばどこかの学会とか公開の研究発表会にも参加し、そこで出会った大学の先生とメール交換して、質問メール送ってしまうとか、そのようなことが積み重なって、また大学の先生方と話しすることにも慣れており、何か一つを深く探究していくという姿勢が評価されてるのではないかと思います。もう一つは、3学年の方で1年生の時から、そういうことを意識して指導されたことも大きいと思います。

学 校：力のある生徒が不合格となっている。今年は19名の生徒が東大を受験したが、様々な面で不運があり十分に力を発揮できなかった。しっかり分析して今後の指導に生かしたい。

○評議員：海外研修について、台湾はアジア圏なのでそれほど大きなカルチャーショックはないと思いますが、アメリカ、イギリスは大変刺激になり、とても貴重な体験になると思います。

○評議員：小中学校でも先生方の働き方改革の話をよくされています。先ほどお話を伺った中で、外部に委託することで先生方が子供たちと向き合う時間を増やせるようにと考えていただいていることが本当にありがたく思っています。

推薦のお話も伺って、本当に是非、来年も再来年もその次もずっと長野高校の進学実績として伸ばしていただきたいと思います。

一方で、大多数の生徒は、これから国公立の試験を受けるということがあるので、是非、これからも生徒の心に寄り添っていただけるとありがたいと思います。

○評議員：昨年は、5年ぶりの運動会やお祭りの際の提灯等では長野高校の皆さんに大変お世話になりました。数年後のお祭りでは、長野高校のグラウンドから花火を上げる予定になっています。

上松区として、今年は防犯活動をしっかりやろうという話になっている。年に数回、防犯パトロールをしているが、長野高校については、自転車が散乱していた

り、カギのかかっていない自転車があつたりすることがあるので、気をつけていただきたい。三輪交番の警察官の話しでは、上松地区は非常に犯罪の少ない地域だということですが、先般、長野駅前では悲惨な殺人事件が起こっており、二度とこのよう」な事件が起きないように、今年は特に防犯に力を入れたい。区民と長野高校生が挨拶をしている場面をよく見るが、お互いに挨拶を交わす等の声掛けも防犯にはとても有効であると思うので今後もご協力をお願いしたい。

○評議員：進学については、大変期待できると感じました。

コロナ禍を機に、過去に捨てるに捨てられなかった物を捨てて、新たな物を構築することはとてもいいことだと思います。先ほどの報告を聞くと、とてもいい傾向だなと感じています。

体験の取り組みについて、様々な職業を体験することはとても良いことだと思いますが、どうしてもお医者さんとか弁護士さんとか裁判員とかそういうところに偏ってしまうような気がします。他の職業も色々あるので、年によって変えていくとか、そういうことも考えてもいいのかなと思います。

自転車のヘルメット着用率がすごく高いことは、大変喜ばしいことではありますが、実際に事故が起きていて、怪我する人のほとんどがヘルメットをかぶっていなかったとの話もあり、中には頭部を打ち記憶が不鮮明になって入院したという事故もあるということなので、しつこいぐらいに注意喚起を行った方がいいと思いました。せっかく色々勉強しても怪我してしまうと大変もったいないと思いました。

海外研修、研修旅行は大変いいなと思います。特にシンガポール研修とイギリス研修が加わったというお話がありました。やはり本物を見るのとビデオで見るとは、全然違いますし、いろんな人との接することによって、多分行った先で同じような学年の人たちと接する機会があると思いますが、そのような人たちと現地の言葉、英語なら英語で話す機会はとてもその後の高校生活だけではなく、大学に行ってから、社会人になってからも大変良い経験として記憶に残るものだと思います。是非、この研修旅行を大事に扱っていただきたいなと思いました。

○評議員：生徒会長にお尋ねします。生徒会行事で骨董市をしたということですが、それは骨董市に参加したということですか。

生徒会：これから企画し立案していく予定です。アンケートを取り、様々な意見があると思いますが、具体的には骨董市を運営し、大人の社会人と接することで自分の視野が広がり、将来に繋がっていけばいいと考えて計画しています。

○評議員：フリーマーケットに参加するということではなく、生徒会が骨董市を企画、運営するということですね。

生徒会：そうです。

○評議員：その発想も留学経験から来ているものですか。

生徒会：そうです。フランスにいた時に、このような市に参加した経験があります。

○評議員：それは大変良いことですね。ヨーロッパでは、様々な市が行われています。

次に、応援練習についてお尋ねします。アンケートを取ったということですが、肯定的な意見、否定的な意見、いかがだったでしょうか。

学 校：自由記述のアンケートなので、様々な意見がありました。例えば、本年度は、2日間の練習でしたが、もう少し厳しくてもいいのではという意見もありました。

○評議員：今の時代の会社では、その帰属意識の低下が非常に著しく、業務をみんなで協力してコミュニケーションを取りながら進めることが難しくなっているとよく聞きます。大学生もやはり帰属意識が低下して、研究室の飲み会にはもう出ないという学生が増えてきているそうです。そのような状況では、応援練習のようなここに所属しているんだという取り組みを是非力を入れて行って欲しいと思います。先ほどの骨董市もそうですが、みんなで何かを成し遂げていくという機会をたくさん設けて、必ず何かに参加しながら帰属意識を高めていくことも大事だと思います。

学習面でのサポートとして勉強の仕方を生徒間で意見交換するというのは、どのような形式でしょうか。生徒がプレゼンをして質疑応答をするような形式なのでしょうか。

学 校：クラスの中でグループをつくり、例えば、あの科目のあの先生はこんな教え方をしてわかりやすかったとか、こんな教材を利用して学力が伸びたとか、お互いを高め合うグループディスカッションをしたり、3年生の夏には、講座ごとに、こんな計画で学習を進めていくなどお互いに情報交換をしながら学びを深め共有しています。

○評議員：とても時間のかかることですが、素晴らしい取り組みなので、是非継続して力をつけていただきたいと思います。

○評議員：今まで何年かこの会議に参加し、お話を伺ってきましたが、その中でも今年度が一番いろんなことの成果が実ってきたと感じています。一番は、探究の授業とか、働き方改革とか、進路指導の先生方のいろんな指導のお話を伺い、本当にいろんなところで様々な工夫をし、そして変化させてきたことが全部つながり、まとまってきた感じがします。

生徒もそうですが、先生方が時間のない中で、守りに入るのではなく、改革というところに本当にご苦労されていることを今回はすごく感じました。これからも先生方の心の若い力を集めて、ずっとこのようなチャレンジしていただきたいと心から思いました。

(9) 校長より御礼の言葉

- ・コロナ禍が明けて、冬の寒さでこわばっていた体が春になって動き出すように、長野高校の本来持っている力が、徐々に芽吹きだしているように感じています。今後も生徒たちが持っている力を最大限に引き出せるよう先生方とともに頑張っていきたいと思えます。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。

(10) 閉会 (16:45)